



Title	World Wide Views in JAPAN : 日本からのメッセージ : 地球温暖化を考える
Author(s)	
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12910
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



いよいよWWViews
本番の開始です。



2009.9.25-9.26

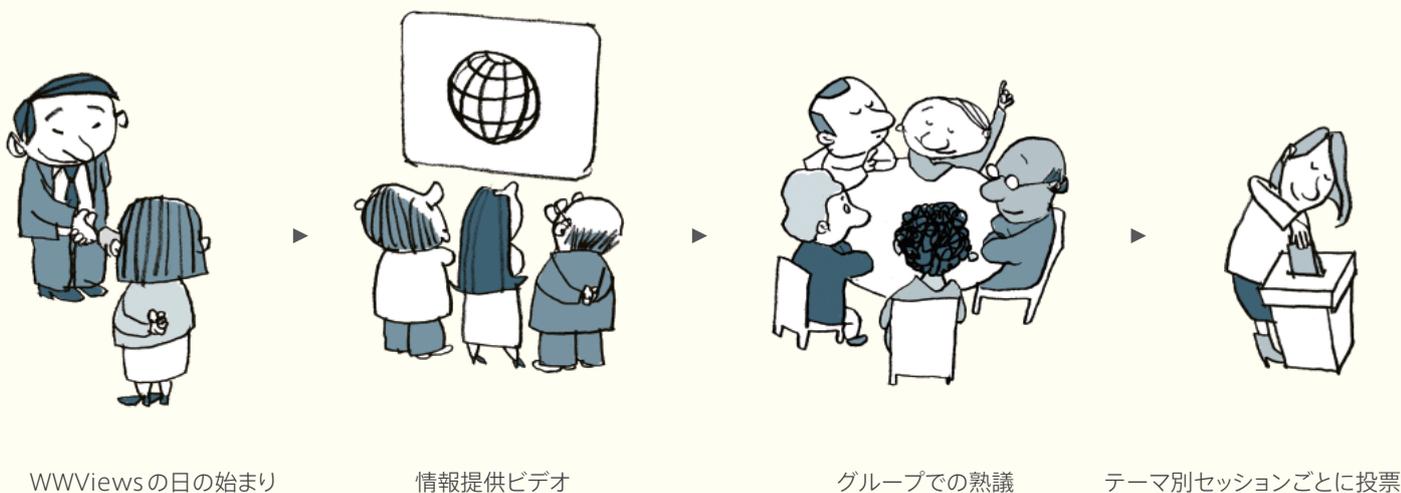
いよいよWWViews本番。 日本をはじめ世界各地で議論が行われる。

2009年9月26日、いよいよWWViews 当日です。

オーストラリアからスタートしたWWViewsは、各国約100人の市民が、同じ情報提供資料、同じ議論手法を用いて地球温暖化の問題について議論し、意思を表明するもので、カリフォルニアで終了するまでの約40時間にわたって開催されました。

日本はオーストラリアにつぐ2番目の開催です。

WWViews 当日の流れと 世界各地とのつながり



WWViews in JAPAN 当日スケジュール

9:00～9:20…………… 開会、スケジュールの説明

9:20～15:10 ……… テーマ別セッション

9:20～10:45 ・第1テーマセッション「気候変動と、それがもたらす結果」

10:45～12:00 ・第2テーマセッション「長期目標と緊急性」

〔休憩〕

12:45～14:00 ・第3テーマセッション「温室効果ガスの排出に対する方策」

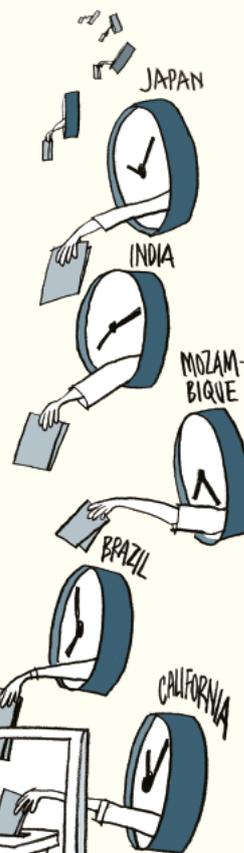
14:00～15:10 ・第4テーマセッション「技術と適応策にかかる費用」

〔休憩〕

15:30～17:30 ……… 提言セッション（COP15の交渉代表者にむけた提言）

17:30～18:00 ……… 結果共有、閉会

18:00～19:00 ……… 記者会見



オーストラリアでの開始からカリフォルニアでの終了まで、wwviews.orgサイト上にたくさんの投票と提言が随時報告され、比較可能になりました。



さらなる熟議



COP15への提案



ご参加いただき、ありがとうございます

提言セッション

本番前日、 参加者が顔合わせ



レセプションであいさつする小林実行委員長

・2009年 9月25日

本番前日には参加者が顔合わせ

会場となる京都市勧業館みやこめっせにおいて、歓迎と参加者の懇親を兼ねたレセプションを行いました。
いよいよWWViews本番の開始です。



左から、大島仁 京都市地球環境政策監、鷺田清一 大阪大学総長、
有本建男 JST/社会技術研究開発センター センター長。

上：レセプション風景 下：参加者全員の集合写真



• 8:45~9:15

参加者受付

いよいよWWViews本番のスタートです。

参加者が続々と会場であるみやこめッセに到着します。

9月26日、いよいよWWViews本番の開始です

• 9:15~9:35

開会、スケジュールの説明

小林傳司実行委員長による開会挨拶に続いて、福山哲郎外務副大臣よりご挨拶を頂きました。副大臣からは、「おそらく私は交渉団の一人になりますので、私はみなさんのまとまったご意見をコペンハーゲンに向かう前に承ることを、この場で約束をさせていただきたいと思います」、「今日一日、大変、みなさんにはお力添えをいただきたいと思います、真摯な議論をしていただくことを心からお願い申し上げます」との力強いメッセージを頂きました。

いよいよWWViews in JAPANの開始です。



左から、
福山哲郎 外務副大臣
杉山滋郎 チーフファシリテーター
柳下正治 副実行委員長
小林傳司 実行委員長

グループ毎に4つのテーマ、 12の質問について議論。



1. テーマセッションの設問について説明するファシリテーター 2. 参加者に事前配布された情報提供資料 3. 参加者に示されたテーマ別の設問
4. テーマの冒頭には5分程度の情報提供ビデオを視聴 5. 参加者の意見は、模造紙に書き込まれる 6. 議論の結果 7. 各々の意見を模造紙で共有

・9:35～15:10

テーマ別セッション

ここでは、以下の4つのテーマについてグループ毎に議論が行われました行われました。

- 第1テーマ別セッション「気候変動と、それがもたらす結果」
- 第2テーマ別セッション「長期目標と緊急性」
- 第3テーマ別セッション「温室効果ガスの排出に対する方策」
- 第4テーマ別セッション「技術と適応策にかかる費用」

各テーマ別セッションの流れ

1. テーマの紹介と情報提供ビデオの上映

メインファシリテーターによるテーマの紹介の後、テーマに関する5分程度の「情報提供ビデオ」※2を参加者全員で視聴しました（このビデオも世界共通。実行委員会で日本語訳の後、音声の吹き替えと字幕の差し替えを行いました）。

参加者へは、開催2週間前に「情報提供資料」※3が郵送されています。参加者はこの事前に郵送された資料と視聴するビデオの情報を基に議論を行いました。

※2： <http://www-japan.net/>にて視聴可能です。

※3： 関連資料 ▶ [記録集④](#)



8. 真剣な表情で議論する市民参加者 9. リフレッシュのために参加者全員で体操タイム 10. 投票用紙をもとに集計 11. 投票結果をスクリーンで共有 12. ポストイットも大活躍

2. グループ別の議論

4つのテーマについての議論は、グループ毎に行いました。各グループの人数はグループファシリテーターを含め、6人～7人です。

また、それぞれのグループは男女比や年齢構成、職業など、可能な限り多様性をもたせた構成となるように配慮しました。

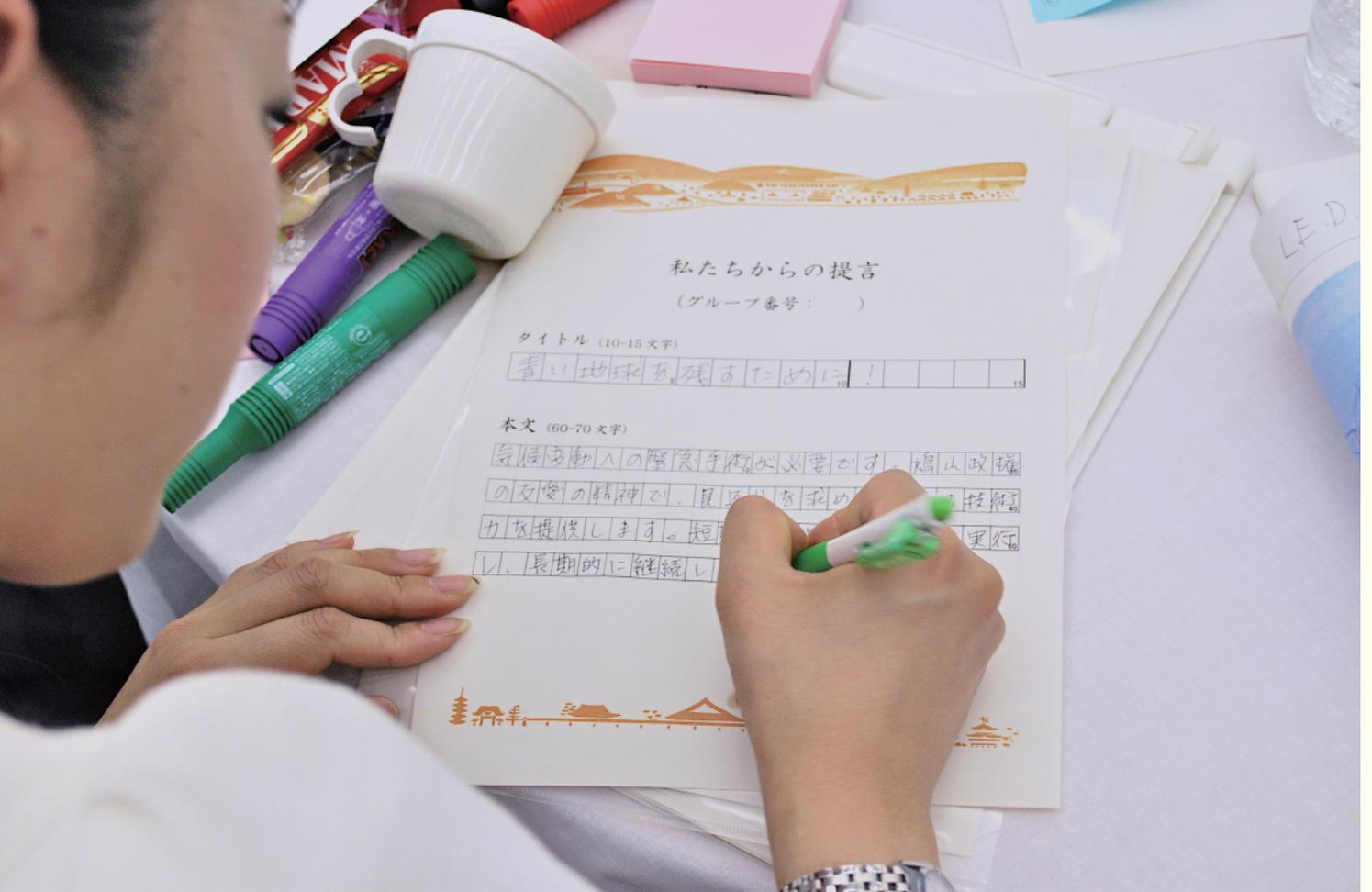
3. 各参加者の回答の投票^{※4}

テーマ毎に、参加市民は約50分の議論を行いました。参加した105人の市民は、グループでの議論の後、質問に対する回答（投票）を無記名で行いました。

グループの全員が投票した後、グループ毎にグループファシリテーターの責任で開票を行い、さらに各グループの結果を会場全体として集約し、webを経由して、WWViewsの統轄機関であるDBTに伝達しました。

※4：日本の投票結果 ▶ 記録集③ P35-39

世界の投票結果 ▶ 記録集③ P41-65



• 15:30~17:30

提言セッション

提言セッションでは、COP15の政府間交渉にのぞむ人々にむけた政策提言を作成しました。提言はグループ毎に作成され、日本会場では、合計18個の提言が完成しました。

世界共通ルールとして、30wordsが基準となっていたため、日本会場では、日本語で60~70文字を本文の目安とすること、短いタイトルをつけることがルールとなっていました。

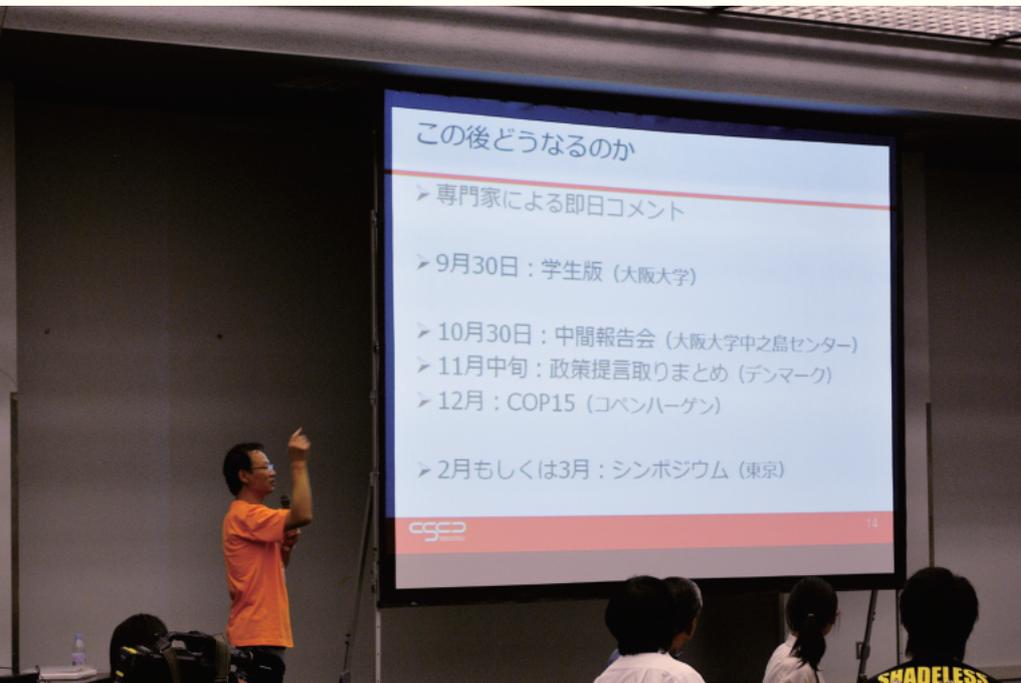
作成された提言は、会場内に貼り出され、参加者105人が1人3票をもち、投票を行いました。

◎投票のルール

1. 自らのグループへの投票は可能とする
2. 戦略的投票（特定の提言に3票投票する行為）は認めない
3. 白票は可とする（3票の全てを使い切る必要はない）



上：真剣な表情で提言を考える参加者
 中：貼り出された提言を回覧する参加者
 下：投票用紙へ記入



今後のスケジュールについて紹介

・17:30~18:00

結果共有・閉会

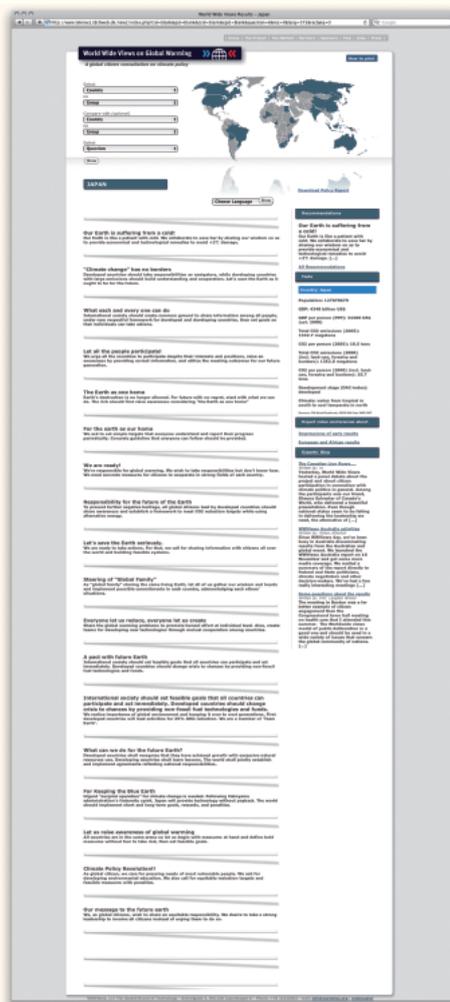
投票結果を確認して、全てのプログラムを終えました。最後に小林実行委員長より、挨拶と今後のスケジュール（結果の公開方法等）の紹介が行われました。



・17:30~

提言の翻訳

18の提言はその日のうちに翻訳し、インターネットを経由してDBTに送信、WWViewsのホームページにて公開されました。



ホームページに公開された提言
<http://www.teknov2.tdchweb.dk/new2/index.php?cid=1276&rec=1>



・18:00~19:00

記者会見

WWViews終了後、別室にて記者会見を行いました。COP15に本日の結果がどのようにインプットされるかなどについて、活発な質疑応答が行われました。

9月26日 Web版WWViews

WWViewsの参加者は105人に限定されていましたが、より多くの方々にこの会議を体験していただくために、ウェブ版のWWViewsを開催しました。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/wwviews/>



9月30日 大阪大学 学生版WWViews

WWViewsの企画と連動した大阪大学の授業（科学技術コミュニケーションの理論と実践）の受講生が中心となって、WWViews本番終了後の9月30日に、大学生を対象に、本番と同じプログラム、同じ情報提供資料・質問で、学生版WWViewsを開催しました。

